



HuRP

ハーブ通信

2010 年

12 月号

(第 55 号)

<http://www.hurp.info>

HuRP5 周年記念◆おとなの社会科見学バスツアー

50 年目の砂川・横田・朝霞 ー東京・安保をめぐるバスツアーー

2010 年 12 月 4 日、私たち HuRP は「50 年目の砂川・横田・朝霞：日米安保をめぐるバスツアー」を行いました。当日は快晴に恵まれ、33 人の参加者と 3 人の講師が、立川市制 50 周年記念公園からバスで出発しました。

「ここまで、米軍基地だったんです」バスが動き出すとすぐ、砂川めぐりの案内人・榎崎茂彌さんが立川市制 50 周年記念公園脇の大通りを指さします。何の変哲もない交差点ですが、ここは、日本で唯一と言える、地元住民が米軍に土地を「返させた」土地なのでした。

返還後、海保・警視庁など官公庁の施設が建てられ、「防災基地」となっているさまをしばらく車窓から眺めた後、バスを降り、砂川闘争史碑「平和の礎」、砂川学習館、阿豆味天神社などを歩いてめぐりました。



もっとも印象に残ったのは、農家の方々が座り込みを続けた「団結横丁」と呼ばれた小さな通り。ここは、滑走路へとまっすぐに続く道でした。最

後まで土地収用に反対した方々の所有地が点在し、「団結爺さん」と呼ばれた方のお墓、そして平和を祈るため日本山妙法寺のお坊さんが長く住んだ庵の跡地に建てられた宝塔など、砂川闘争の歴史が深く刻まれた場所です。HuRP 立ち上げイベントの際に上映した記録映画「砂川の人々」で見た、最前線の警察隊ひとりひとりに話しかけ、土地がいかに大切かを説得する農家の人々の姿が思い出されました。

榎崎さんは、「測量に反対する有名な『砂川闘争』以後の、東京都土地収用委員会での闘いが、実はもっと大変だったのです」と付け加えます。反対同盟の分裂や、東京地裁で「伊達判決」を引き出すことになる刑事事件「砂川事件」が起きたのも、その頃です。

五日市街道を西に向かうバスの中、「実は、横田基地は立川基地の子ども」と榎崎さん。「砂川闘争でジェット機が飛ぶだけの場所を確保できなかった米軍が、立川基地をあきらめ、横田に集約した。それは、横田に移ったということ」。そこで、盛岡暉道弁護士にバトンタッチしました。

盛岡さんは、「横田は、いま生きている基地。ゆっくり説明しながら歩いて回ることはできません。がっかりしないで」と前置きをしつつ、「ここでは、とにかく基地の広さを感じてほしい」と説明を始めます。五日市街道が、基地拡張の過程で分断され、不自然に曲がったあたりでバスを降り、滑走路の南端をのぞみます。金網越しに、遠

く C130 輸送機を見ていると、上空にセスナが現れました。聞くと、あれは米兵の「休日の散歩」だとのこと。それは爆音がするわけではないのですが（墜落事故の危険性は充分ありますが）、その後もう 1 機見ることになるその小さな物体に、言いようのない不愉快さを感じずにはいられませんでした。



生活のなかに存在し続ける「生きている」基地。生きているということは、日々刻々変化し、変質もします。しかし情報公開は全く不十分です。

存在することが当たり前となっているだけでなく、「横田基地日米友好祭」がもっとも集客あるイベントになっているという福生市。盛岡さんたちは、市民にもっと関心をもってほしいということで、2009 年 4 月から、毎月国道 16 号沿いにある「フレンドシップパーク」で座り込み行動などを行っているそうです。

そして、練馬区にまたがる朝霞駐屯地へ。ここから高速でも 1 時間程度かかります。住民の目線から、「大泉学園町と朝霞には何のバリアもない」と話される宮前節子さん。近くにたくさんの小中学校・高校があるのを地図で示し、核・生物・化学兵器の研究をする NBC（Nuclear, Biological, Chemistry）研究本部ができるとき、自らの足で情報を収集し、学校を回って反対運動を組織し署名を集めるなど活動の経験について伺いました。

また、ベトナム戦争のとき、立川から負傷した兵士が運び込まれ、このあたりに野戦病院を作ったそうです。「傷の縫合などに、地元の主婦たちがアルバイトで随分かり出された。今遊歩地になっているところもあって、このような歴史的経緯

の中で、現在も、いつでもまた野戦病院が作れる状態です」。また、高速道路、外環道路など、有事の際すぐに軍事転用できる状態にあり、さらに住宅地のすぐ近くに 11 トンの弾薬庫があることに、危機感を募らせます。

そして、迎撃ミサイル PAC-3 が配備され、「一番怖いのは、誰が迎撃の指令を出すかということ。現時点で米軍の判断で発射できる状態にしている。米軍の指示で自衛隊が動くことの証しではないか」宮前さんはそう述べられました。私たちは、その後バスを降り、自衛隊広報センター（通称「りっくんセンター」）を見学しました。



砂川、横田、朝霞。それぞれの場所で案内人にお聞きしたことを思い出しながら、自衛隊広報ビデオを視聴し、ヘリの模型に乗り、クイズに参加し、防弾チョッキに触り、そして広報誌を持ち帰りました。

この日に回った 3 カ所で見えたもの、聞いた話は、どれも自分と遠くない存在の声として心に刻まれました。それは、軍隊とは、平和のなかに存在するものではないということです。ひとたび国家が「有事」と判断すると、個々の犠牲の何と大きいことか。私は、軍隊が守るものは何なのか、日米安保改定 50 年のこの年に、強く考えさせられました。同時に、軍事力ではない、さまざまに智慧をしばり平和を実践する国々に学びたいと思いました(※1)。(A)

(参加者の感想)

当日は、スタッフの方のご配慮などがあり、非常にスムーズに見学を行うことができました。

また、案内役のお三方におかれましても、実際

に活動をされており、当地に熟知されておる方ばかりで、座学では得られない貴重な学習の機会となりました。砂川闘争での島田氏のお話を伺えなかったのは大変残念に思いましたが（※2）、楢崎氏のガイダンスはその失望を補って余りある素晴らしいものでした。

いずれも、車を所有しない個人ではなかなか足を運べないところでした。また、たとえ訪れたとしても、先導がなければ見落とししてしまう、あるいは気づかないような様々な視点を得ることができました。

60 年安保闘争の前史として、砂川闘争は大変

重要な里程標であると思います。さらに、楢崎氏の言われたように「砂川の子」である横田基地、あるいは朝霞駐屯地へと続いていくことを考えると、基地の歴史あるいは日米安保をめぐる戦後史が、一連のものとして私の中で記憶されました。（Ⅰ）

（※1） 興味のある方、詳しくは『軍隊のない国家——27 の国々と人びと』（日本評論社、2008 年）を参照してください。

（※2） 当初レクチャーを予定していた島田氏が都合で来られなかったという経緯がありました——編集部注

戦後司法を考える

『日本国憲法と裁判官』 紹介

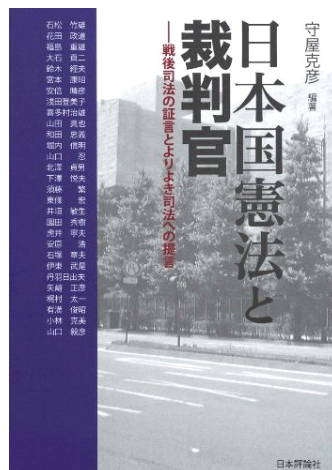
◆『日本国憲法と裁判官』

日本評論社 刊 守屋克彦 編

2010 年 11 月発行：A5 判

税込 2,940 円

昨年春から今年にかけて、法学館憲法研究所で開催してきた元裁判官による講演会『日本国憲法と裁判官』をまとめた講演録が出版されました。1970 年代前半、裁判官に対して激しい政治的干渉があり、「司法の危機」といわれました。この時代を体験し、良心と独立を守り続けた 30 人の元裁判官が、その歴史と自らを照らし合わせて語っています。講演会に行かれた方も、行かれていない方も、ぜひご一読ください。



序 章 …守屋克彦

第 1 章 裁判官と平和主義

…石松竹雄、安倍晴彦、下澤悦夫

第 2 章 裁判官のあり方

…花田政道、福島重雄、山口 忍、東條 宏、丹羽日出夫、梶村太市

第 3 章 民事裁判にかかわって

…大石貢二、井垣敏生、園田秀樹、矢崎正彦

第 4 章 刑事裁判にかかわって

…山田真也、堀内信明、須藤 繁、虎井寧夫、安原 浩、伊東武是、有満俊昭

第 5 章 司法の危機、そして司法改革

…宮本康昭、鈴木經夫、喜多村治雄、浅田登美子、和田忠義、北澤貞男、石塚章夫、小林克美、山口毅彦（資料）

戦後の裁判所、裁判官をめぐる主な動向（1947 年～2009 年）

●ご購入は、日本評論社あるいは法学館憲法研究所 HP より申し込み下さい。●

平和な休日～のほほんのほ子のカフェ散歩～

第8回: 笹塚 台湾物産館

<http://www.taiwan-bussankan.com/>

住所：渋谷区笹塚 2-14-15

ヴェルト笹塚ツインビル1階

今回ご紹介するのは、笹塚にある台湾物産館です。非常に小さなお店なので、見逃してしまいそうですが、外見も一目で「台湾物産館」だろうとわかる感じなので、大丈夫。しずかーな店内には、台湾の名産品が売られていて、はじっこにイートインコーナーがあります。のほ子は水餃子（500円）と、マンゴーアイス（細かいかき氷みなのに、濃厚なマンゴー入りソースがかけてある）を注文しました。どちらもおいしい。店内の雰囲気は、ちょっと寂しげですが、味は十分満足いただけると思います。のほ子は、完全に白旗でしたが、のほ子の友達がはまっている「ヘイソンサースー（黒松沙土）」は台湾のコーラ。まさに飲むサロンパスです、はい。勇気ある方、挑戦してみてください？

（営業時間：10：00～20：00）



～ちょっと寄り道～

新宿 平和祈念展示資料館

<http://www.heiwakinen.jp/index.html>

実は、のほ子は今回、寄り道できなかったのですが、ご紹介します。おもにシベリア抑留関係の資料が展示されているようです。ちょうど『カンバスに刻むシベリア抑留の日々～ふたりの画家展～』という絵画展をやっていました（11月2日～28日）。戦争について正面から議論するのが苦手なのほ子のような人でも、こうした展示を見ることからなら、入りやすいと思います。無料ですし、新宿のど真ん中、行きやすいのではないのでしょうか？

今年もあっという間の一年でした。2回の大人の社会科見学は、いずれも多くのことを学び、考えることができた催しでした。来年もいろいろな企画を行いますので、ご期待ください。また、皆さまからのご意見ご感想もお待ちしておりますので、下記までお寄せくださいますよう、お願い申し上げます。

来年も、よろしくお願いいたします。（T本）



特定非営利活動法人「人権・平和国際情報センター」(HuRP: ハーブ)

Human Rights and Peace Information Center JAPAN (HuRP)

〒101-0065 東京都千代田区西神田2-7-6 川合ビル41号室 TEL&FAX 03-3234-3231

e-mail hurp@hurp.info HP <http://www.hurp.info/>